

政府および公的機関からの東日本大震災に対する支援

	時期	内容	支援先	特記事項
物資 支援	3月22日	<p><u>フランス政府による原発事故における技術支援</u></p> <p>アレヴァ(仏原子力大手)、フランス電力公社(EDF)、フランス原子力庁(CEA)で構成される INTRA(原子力事故ロボット工学的介入経済利益団体)により<u>輸送物資提供</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 放射線防護および放射線量計測装備 30トン</li> <li>▶ 大気モニタリング用トレーラー1台および環境放射線測定用トラック3台</li> <li>▶ 排水ポンプ10台、可動空気圧縮機5台、自家発電機5台</li> </ul>	原発	日本到着後の支援物資の分配は、現地に派遣されているフランス市民安全部隊の2隊が行う。 ユーロコプター社はヘリコプター2機を提供し、この分配作業を支援。
	3月22日	<p><u>フランス外務・ヨーロッパ問題省の危機対策センターからの人道支援のための輸送物資提供</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 毛布 7,000枚</li> <li>▶ ミネラルウォーター 10万本</li> <li>▶ 酸素マスク 100万台</li> <li>▶ 缶詰の果物 5トン</li> <li>▶ 乾燥スープ 5万食</li> <li>▶ アルコール消毒液 10万ボトル</li> <li>▶ 医薬品・医療関連品 5トン</li> </ul>		
	3月22日	<p><u>日本当局要請によるフランスの国防省、原子力庁、アレバによる提供</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 放射線防護機材 40トン(個人放射計、個人線量計、マスク、フィルター、放射線防護服など)</li> </ul>	原発	
	4月9日	<p><u>アレバが福島原発に汚染水処理システムを設置</u></p> <p>フランスの水処理大手ヴェオリア・ウォーターの技術も用いたこの施設は、処理水の放射能濃度を極めて顕著に低減できるほか、処理済み水は原発の冷却装置で再利用することもできる。</p>	原発	フランス共和国大統領の日本訪問の結果の一つ。

<p>人的支援</p>	<p>3月14日</p> <p>3月16日</p> <p>3月22日</p> <p>4月3～9日</p>	<p><u>フランス市民安全部隊が日本国民の救助支援を開始</u> レスキュー隊員 63 名、各県の消防・レスキュー隊に所属する消防士(ブーシュ=デュ=ローヌ県 7 名、ヴォークリューズ県 5 名、セーヌ=エ=マルヌ県 13 名)、パリ消防隊の兵士 11 名と放射線に関わるリスクの専門家 1 名(ロット=エ=ガロンヌ県の消防・レスキュー隊所属)</p> <p><u>仏日友好議員連盟が駐仏日本大使に支援を伝える</u> ディディエ・カンタン会長は仏日友好議員連盟を代表して、日本国民の勇気と誇りに敬意を表し、議連としての具体的な支援を示した。 - 日本の地方自治体のカウンターパートナーとなる国内の自治体に働きかける 日本の震災孤児の里親になる - 在仏の日本人学生に物資や財政的援助を行う</p> <p><u>フランス政府による技術支援</u> アレヴァ(仏原子力大手)、フランス電力公社(EDF)、フランス原子力庁(CEA)で構成される INTRA(原子力事故ロボット工学的介入経済利益団体)により提供</p> <p><u>フランス市民安全部隊が被災地のがれき撤去に従事</u> 派遣隊員 50 人は 3 月 20 日(日曜日)、リセール隊長の指揮下で、三沢市沿岸部の三川目地区に通じる長い道路のがれき撤去作業。 3 月 21 日(月曜日)朝、より南に下った八戸市の大久喜港に移動し、総勢 100 人態勢で作業にあたる。地元住民の歓迎を受けた市民安全部隊は、住民および三沢基地のアメリカ軍とともに、船舶を元に位置に戻す作業や、港に通じる主要道路の復旧、がれきの分別(金属類、可燃物)、雨水排水網の復旧などに力を合わせて取り組む。</p> <p><u>フランス料理の炊き出し隊が郡山に</u> フランス人星付きシェフ 7 人が交代で福島県郡山市の避難者に暖かい料理を提供しました。</p>	<p>原発</p> <p>三沢市 八戸市</p> <p>郡山市</p>	<p>クロード・ゲアン内務大臣は、日本の当局のお役に立つよう、フランスの市民安全部隊の一部派遣を決定。いずれも放射線の数値が高い場所でも活動が可能な救助と瓦礫の除去の専門家です。</p> <p>在外フランス人連合の主導、在日フランス人協会、在日フランス人シェフ・パーティ</p>
-------------	--	--	---	---

	4月7日	<p><u>レッドヘルメット財団が日本で行方不明者検索サイト「MISSING.NET」を開設</u></p>		<p>シエの会の協力の 下に行われる</p> <p>東南アジアの大津波の際にフランス人被災者の本国帰国を担当したニコル・ゲジュが検索を支援するため、検索エンジン「MISSING.NET」を考案。この取り組みはフランス経済・財務・産業省が実施したプロジェクト公募「革新的ウェブ」で受賞プロジェクトに</p>
	4月11日	<p><u>アレバ社日本に駐在する専門家スタッフを約15人に増強</u> 特に放射性排出物の処理、使用済み核燃料貯蔵プールの管理の専門。</p>	原発	<p>選考され、Google, Bearstec, European Consulting Services の3社の協賛を得て開発。</p>
	7月14日	<p><u>フランス革命記念日祝賀レセプションを福島県で開催</u> ミッテラン文化・通信大臣がフランス革命記念日祝賀レセプションに出席。 15日には宮城県仙台市を訪問し、東北大学で講演を行う。 レセプションには1,000人を超える招待客が出席。そのうちの半数は東日本大震災で被災された方々、残りの半数は東北地方の行政関係者および東京から出席される招待客の方々。</p>	福島市	<p>フィリップ・フォール駐日フランス大使は、毎年恒例のフランス革命記念日祝賀レセプションを東京から福島に会場を移して開催決める。福島日仏協会との協力。</p>
	2012年 1月23日	<p><u>パリ・オペラ座のトップダンサーが東北へ</u> <u>ー オペラ座エトワールたちによる仙台バレエ・レッスン</u> この4人のトップ・ダンサーが2012年1月23日、仙台と石巻のバレエ学校の子どもたちにバレエのレッスンを</p>	仙台 石巻	<p>在日フランス大使館が展開している、東北を文化事業で応援するキャンペーン</p>

		<p>行います。2011年3月に日本を襲った震災に心を痛めた3人のエトワールとプルミエ・ダンスールの4人(バンジャマン・ペッシユ、ドロテ・ジルベール、イザベル・シアラヴォラ、フロリアン・マニュネ)は、今回の来日公演を機に東北の被災地で連帯の気持ちを表したいと考えました。また有名なフランスのブランド、レペット(Repetto)社のバレエ用品が福島の子どものために贈られます。</p>		『日本とフランス、共に明日に向かって』の一環。
義援金・寄付金	<p>3月14日</p> <p>3月18日</p> <p>3月18日</p> <p>3月15日</p> <p>3月22日</p>	<p><u>フランス財団による日本支援運動</u></p> <p>被災者への同情と連帯を表し、最も必要としている人々を支援するための基金を設ける。</p> <p>『Solidarité Japon 日本への連帯』を經由して集められた義援金は応急的に行われる支援の後に、最も被害を受けた被災者の救援に当たる日本の団体に分配されます。それぞれのプロジェクトはフランス財団の専門委員会によって審議されます。</p> <p><u>フランス赤十字社が日本赤十字社のために義援金を集める</u> 同時に、地震発生時より、フランス外務・ヨーロッパ問題省に、24時間態勢で開設された被災者の安否確認のためのコールセンターで、フランス赤十字社のボランティア20数人が交替で電話応対に従事している。</p> <p><u>サントル地域圏が日本に20万ユーロの支援を決定</u></p> <p><u>レンヌ市が被災者支援の口座を開設</u></p> <p>仙台市(宮城県)と姉妹都市提携を結ぶレンヌ市は、被災者のために義援金を募るべく特別口座を開設したほか、レンヌ市議会は近く5万ユーロの緊急支援を承認する予定。</p> <p><u>ジャック・アタリ氏特別講演会 『Spécial Solidarité Japon』</u> パリ商工会議所主催</p> <p>国境を越えた結束の強さ、現場の人々の健闘に感謝するとともに、日本を応援するジャック・アタリ氏はその観察眼・分析力を通して今必要なこと、将来のあり方を語る。</p> <p>講演会後に義援金小切手を受け付ける。</p>	仙台市	フランス財団は2010年のハイチや2004年末の東南アジアにおける津波、2010年のシンシヤ台風や2009年のクラウド台風など、国内外の大災害の生存者のために義援金を収集する主要団体で、最も援助を必要とされる被災者のニーズに応えるための専門性と能力を備えている。

	<p>4月8日 ～10日</p>	<p><u>フランス南部の都市トゥールーズでの支援の輪</u></p> <p>日本文化を紹介する『TGS-Ohanami』展が4月8日から10日まで開催。同展では期間中、ヨーロッパを拠点に活動する日本人姉弟ユニット YANEKA によるチャリティーライブや応援メッセージの寄せ書きなど、日本を支援する多数のイベントが行われた。</p> <p>赤十字社のブースも開設され、日本赤十字社を通じて被災地に寄付するため、義援金が集められた。</p>		
	<p>6月20日</p>	<p><u>日本支援のための特別チャリティーオークション</u>（フィリップ・フォール駐日フランス大使提唱、イッセイ・ミヤケ後援）</p> <p>日仏のアーティスト80人（クリスチャン・ボルタンスキー、ジャン＝ミシェル・アルベローラ、クロード・レヴェック、ジャン＝ミシェル・オトニエル、アネット・メサジェ、ジャン＝リュック・ヴィルムート、イヴ・ブロールジェ、ヴァレリー・ムレジャン、池田亮司、ニコラ・ピュフなど）が在日フランス大使館の呼びかけに応じて、東日本大震災の被災者支援のための大規模なチャリティーオークションに各自1作品ずつ提供。オークションの収益金は、三宅一生、安藤忠雄両氏および東日本大震災復興構想会議と協議の上、全額が被災地に寄付される。このオークションは「日本とフランス、共に明日に向かって」キャンペーンの一環として、ピエール・コルネット・ド・サン・シール、ジョルジュ・ドレットレの両競売吏の下、イッセイ・ミヤケの後援を得て開催。</p>		<p>アーティストと文化界を結びつけるこの連帯プログラムは、フィリップ・フォール駐日フランス大使が2011年5月18日（水曜日）に東京都内のフランス大使公邸に、文化庁の近藤誠一長官をはじめ、芸術、文化、経済、外交、政治など各界の著名人を大勢招いて発表。</p>
	<p>9月16日 ～11月13日</p>	<p><u>ギヨム・ボタジ展「HOPE 2011」</u> 札幌宮の森美術館</p> <p>ギヨム・ボタジの新しいプロジェクト「HOPE 2011」は、札幌宮の森美術館を舞台に展開。アーティストが自ら選ぶ代表作の展示に加え、説明会やワークショップを開催するほか、美術館の外壁を使って壁画を公開制作。</p> <p>「HOPE 2011」は東日本大震災の犠牲者に対する哀悼の意も込められている。同展入場料の一部は復興支援のための義援金として寄付される。</p>		<p>在日フランス大使館が2011年5月に打ち出した、東北復興支援に向けた日仏文化活動を推進するキャンペーン「日本とフランス、共に明日に向かって」の一環。</p>

メッセ ージ他	3月11日	<u>アラン・ジュペ外相の声明</u> <u>サルコジ大統領が菅首相に書簡</u> <u>フィヨン首相が菅首相に書簡</u> <u>ディディエ・カンタン仏日友好議員連盟会長の書簡</u>		
	3月12日	<u>アラン・ジュペ外相の声明</u>		
	3月19日	<u>サルコジ大統領が菅総理大臣と電話会談</u> 菅総理大臣に日本に対するフランスの全面的な連帯の気持ちを伝え、この悲劇的な試練における日本国民の類まれな勇気と尊厳に敬意を表しました。		
	3月23日	<u>フィヨン首相がパリの日本大使館で震災犠牲者を追悼</u> フランスのフランソワ・フィヨン首相は3月23日(水曜日)、パリの在フランス日本国大使館に集まったフランス在住の日本人と会見し、東北地方太平洋沖地震および津波の犠牲者に深い哀悼の意を捧げるとともに、被災者ならびに日本国民に対する支援と激励の気持ちを表明。		
	3月30日	<u>サルコジ大統領が日本在住フランス人にメッセージ</u>		
	3月31日	<u>ニコラ・サルコジ大統領が訪日</u> 重大な災害以来、試練を経験している日本国民に対し、フランスの連帯を国ならびに G20・G8 議長国として表明。菅直人内閣総理大臣と会談および共同記者会見を行う。		

民間組織（NGO・民間企業など）による東日本大震災に対する支援

	時期	内容	支 援 先	特記事項
物資支 援	3月16日	<u>アレバが日本支援に乗り出す</u> 吸収缶付き防護マスク 3,000 個 ▶ 防護服（つなぎタイプ） 1 万着 ▶ 手袋 2 万組 ▶ 中性子を吸収するホウ酸 100 トン（EDF が提供）	原発	GIE Intra（原子力事故ロボット工学的介入経済利益団体）は、シノン原子力発電センター近くに本拠を置き、重大な原子力事故発生時に、人間に代わって施設周辺および内部で作業できるロボットの考案、開発、提供を業務とする。主要株主はフランス電力公社（EDF）のほか、フランス原子力庁、アレヴァ。  フランスはチェルノブイリ原発事故の経験を生かし、極限状況で使用する特殊機器を考案、製作、これらの機器のオペレーターを養成する唯一の国。
	3月18日	<u>GIE Intra がロボットと特殊機器を送付</u>  支援物資には、採取機器や遠隔操作型ロボットをはじめ、放射線量が高すぎて近づけない場所で緊急作業ができる機器が含まれる。  遠隔操作型機器は次のようなことができる。 ▶ 放射線量が高くて近づけない場所での移動 ▶ 屋内外での作業 ▶ 現場での土木工事（パワーショベル、ブルドーザー）、複雑かつ技術的な作業（採取、破片の回収、標識など） ▶ 放射能測定の実施 ▶ 画像の撮影および伝送	原発	
	3月18日	<u>EDF、福島原子力発電所の原子炉冷却用のホウ酸 100 トンを送付</u>	原発	
人的支 援				

義 援 金・寄 付金	3月14日	<u>アレバ、日本赤十字に100万ユーロを寄付</u>	原発	
	3月24日	<u>東北地方太平洋沖地震の犠牲者に捧げるコンサート</u> ラジオ・フランス、フランス国立管弦楽団、指揮者の佐渡裕氏、ピアニストのジャン=イヴ・ティボーデ氏によるパリのシャンゼリゼ劇場で行われる演奏会を、3月11日に日本を襲った東北地方太平洋沖地震の犠牲者に捧げたいと表明。		
	4月5日	<u>ジェーン・バーキン震災復興支援コンサート『Together for Japan』</u> 女優・歌手のジェーン・バーキンが急遽来日し、東京で震災復興支援のための無料チャリティ・イベントを開催。 ジェーン・バーキンのコンサートのほか、今回の彼女の復興支援イベントの趣旨に賛同した日本のアーティストたちが音楽、ポエトリーリーディング、ダンスパフォーマンスなどで参加。 会場で受け付けた義援金は、Médécins du Monde (世界の医療団) を通じて、被災地の復興のために使われる。		
	4月11日	<u>フランスのミュージシャン、アーティストが賛同した配信限定チャリティー・アルバム</u> エミリー・シモンやゴタン・プロジェクト、セバスチャン・テリエの未発表ライブ音源、さらにサルコジ大統領夫人のカーラ・ブルーニも参加。 『ガンバレ、ニッポン/Japon, mon amour』と題し、ランブリング・レコーズが指揮をとり、チャリティーとして賛同したフランスのミュージシャン、アーティストを収録した日仏合同のチャリティー・コンピレーションとして、iTunes、amazon から配信限定で販売(アルバム価格900円)。 収益はすべて、被災者支援の義援金として日本赤十字社に寄付される。	原発	フランスに縁の深いランブリング・レコーズによる企画。
	4月27日	<u>日本支援に乗り出すフランスのBD作家たち</u> バンド・デシネ(BD)原作者のジャン=ダヴィッド・モルヴァンとシルヴァン・ランベルグ、イラストレーターのアレクサンダー・ネレ、カフェ・サレ集團の呼びかけで、フランスのBD作家たちが東日本大震災の被災者支援に立ち上がり、フランスやヨーロッパのイラストレーターに日本国民との連帯を示すイラストをオンライン		



		<p>公開するよう提案。</p> <p><b>チャリティーオークション</b></p> <p>4月30日18時、パリのギャラリー・アルリュディックで行われるオークションに、今回制作されたイラストの原画を出品。</p> <p>収益金は日本支援基金を設立した<a href="#">フランス財団</a>に寄付される。</p> <p><b>イラスト集の出版</b></p> <p>今年9月に発売予定のイラスト集をインターネットで先行予約販売。収益金はアジア向け慈善団体「Give2Asia」に寄付される。</p>		
5月2日～5日		<p><u>ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭 2011 義援金総額 2,973,121 円</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月2日から5日までの募金額 1,701,121 円</li> <li>・5月2日復興支援スペシャルコンサートチケット収入額 1,272,000 円</li> </ul> <p>東京都福祉保健局を通じて、東北地方太平洋沖地震東京都義援金の一部として、被災地のために活用される。</p>		
6月1日		<p><u>【東日本大震災チャリティー・コンサート】</u> クリストフルセ チェンバロ・リサイタル</p> <p>東京と大阪で回開催される コンサートの収益金は、日本赤十字社を通じて東日本大震災被災地に寄付される。</p>		<p>東日本大震災に強い衝撃を受け、日本の友人たちにお見舞いと連帯を伝えようと、スケジュールを急きょ変更して来日リサイタルを開催。今回のコンサートのため、マルク・デュコルネが1995年に制作した愛用のプレミッシュ・チェンバロもパリから送る。</p>
6月30日		<p><u>エノキアン協会から日本赤十字社に義援金1万2000ユーロ</u></p> <p>創業以来200年以上の老舗企業が加盟する国際組織「エノキアン協会」はフランス大使公邸で、フィリップ・フォール駐日フランス大使の立会いの下、日本赤十字社の近衛忠輝社長に東日本大震災被災者への義援金を手渡した。</p>		<p>エノキアン協会は1981年に設立された伝統企業の国際組織で、フランスのパリに本部を置き、</p>

	<p>9月20日</p>	<p><u>『We Love Japan』 日本のための100ブランド チャリティー展覧会と販売</u></p> <p>NPO『アジア・ミックス・カルチャー』とそのウェブサイト・マガジン『Minimix』による東日本大震災で被災した子どもたちのためのチャリティー活動。</p> <p>『Minimix』は著名なアーティスト、デザイナー、グラフィック・アーティスト、ファッション・クリエイターたちにマスクの制作を依頼。これらのマスクは造形作品として展示された後、オークションで販売。作品はパリ装飾芸術美術館で9月20、21日に展示され、21日夜にオークションに出品。</p> <p>収益金は日本を拠点とするNGO『国境なき子どもたち』に寄付される。</p>	<p>加盟社数はヨーロッパの企業を中心に現在39社、そのうち日本企業は法師、月桂冠株式会社、岡谷鋼機株式会社、株式会社赤福、株式会社虎屋の5社。</p>
	<p>10月</p>	<p><u>シルヴィ・ギエム・オン・ステージ 2011</u></p> <p>被災者との連帯の気持ちを最初に表明したフランス人アーティストの一人、ギエムは被災した日本の人々にエールを送るため、日本ツアーで封印していたモーリス・ベジャールの最高傑作『ボレロ』を復活上演。</p> <p>東京、岩手県盛岡市、福島県いわき市の3公演に無償出演。</p> <p>10月19日(水)に東京文化会館で行われる『HOPE JAPAN』チャリティ・ガラ公演は、パリ・シャンゼリゼ劇場で行われた同名のチャリティ公演の精神を引き継ぎ、シルヴィ・ギエムをはじめ、ダンサーのア ンソニー・ダウエル、マニュエル・ルグリ、マッシモ・ムッル、メゾ・ソプラノ歌手の藤村実穂子、日本舞踊家、太鼓奏者、横笛奏者、東京バレエ団、東京シ ティ・フィルハーモニック管弦楽団などが共演。</p> <p>この公演の興行収益金は、東日本大震災・津波遺児を支援するため、あしなが育英会に全額寄付される。</p>	<p>盛岡市 いわき市</p>
	<p>9月23日</p>	<p><u>【復興支援】日仏親善柔道大会がパリで開催</u></p> <p>東日本大震災で被災された方々のための義援金募金を目的に、スポーツ紙「レキップ」とフランス柔道連盟の共催で開催。</p> <p>この日に集まった5万ユーロを超える義援金は、被災した柔道家の家族を支援するため、全日本柔道連盟に全額寄付。</p>	

		<u>その他、サンゴバン(1 億円)、LVMHなど多くのフランス企業が寄付</u>	
メッセージ他	4月21日	<u>フランスから日本に寄せる 60 分のメッセージ</u> ユニークでありながらも普遍性を有す日本の文化、生活様式に魅了されたアーティストや文化人が、日本と日本人に寄り添うことの大切さを、それぞれの立場から語る。	制作：フランス国立在外共同研究所 (CNRS)・アジアネットワーク